

伊勢崎市民病院だより

ふれあい

2005年
第16号
10月号

〒372-0817 群馬県伊勢崎市連取本町12番地1 TEL 0270-25-5022(代) FAX0270-25-5023
ホームページ : <http://www.hospital.isesaki.gunma.jp>

個人情報保護法

～それは安全な医療へのパスポート～ 副院長 神坂幸次

平成17年4月1日から「個人情報保護に関する法律」が施行されました。当病院ではこの法律にもとづいて「患者さんの個人情報の保護についてのお知らせ」を掲示しております。

病院には患者さんの大切な情報がたくさん保存されています。患者さんの来院の目的は、病気の正しい診断と治療を受けることであり、患者さんからできるだけ多くの情報を得て、その情報をもとに診療しますが、不正確な情報は誤診の原因になります。病院はこの個人情報を利用することでその役割を果たすことができます。

患者さんから情報を収集し、それに基づき診療を行うという関係には、今までは何の疑問もありませんでしたが、法律の施行後は患者さんから得た情報の利用については患者さんの同意が必要となりました。しかし、患者さんの診療のたびに情報の利用目的を説明し同意を得ていない診療ができません。そこで当病院では「お知らせ」の中の『当病院での患者さんの個人情報の利用目的は』で、その利用目的を具体的に掲示しました。患者さんによっては同意できない項目があるかもしれませんが、お申し出がない限りは同意されたものとして診療します。これによって患者さんの個人情報は常に同意に

基づいて収集・利用されることとなります。

「安全で安心できる医療」が病院の目指すところであり、それは患者さんの望みでもあると思います。個人情報保護という新たな取り組みによって、患者さんと病院があゆみより、安心して受診できる環境ができればよいと思います。



転倒予防の重要性について

高齢化や閉経を原因とする骨粗鬆症の増加に伴い、大腿骨頸部骨折を受傷する方が増加しています。平成16年度に当院で治療した大腿骨頸部骨折の患者さんは77名（男性22名、女性55名）、平均年齢75.9歳（男性73.5歳、女性76.8歳）でした。その内、手術を受けられた方は71名です。治療に費やされた入院期間は手術された方で約36日、手術されない方では約55日の入院を必要としました。

このように大腿骨頸部骨折は手術を受けられた方でも長期間の臥床状態、すなわち不動をしいられる代表的疾患です。それに加えて特に高齢者では将来、反対側の大腿骨頸部骨折の危険性が高いことが様々な調査の結果分かっています。

最近の研究結果では高齢者の大腿骨頸部骨折の急性期では不動誘発性の骨吸収亢進が起こり、急速に骨からカルシウムが血中に溶け出すこと、また活動性の向上とともに骨吸収が改善することが分かってきました。しかし骨折を受傷する以前の状態にはもどれないことも分かり、これが反対側の大腿骨頸部骨折だけでなく脊椎圧迫骨折、上腕骨頸部骨折、手関節周辺骨折などの原因となっています。

医療者側としては受傷後すみやかにハビリテーションを心がけるとともに、薬剤投与にて骨吸収亢進、骨形成低下の抑制に努めています。しかし最も良い手段は転倒による骨折をしないよう、日頃からこまめに体を動かして筋力の維持、向上に努めることです。



大腿骨頸部骨折

整形外科主任診療部長 長田純一

腎センター開設7年

新病院建設に伴い、南棟に移り名称も透析室から腎センターに変わり、7年が経ちました。透析装置も14台から28台に増え、現在、約75名の患者さんが腎不全の治療のため通院しています。

最近、透析を始める患者さんは糖尿病性腎症（糖尿病の合併症）のかたが増えています。（全国的にもおよそ4割を占め、透析導入疾患1位）今後も糖尿病の患者さんが増えていくと言われていることを考えるとこの傾向は変わらないと思います。日々、糖尿病の怖さとコントロールの重要性を感じながら透析業務を行っています。

血液透析は、血液を身体の外に出しながら行う治療なので安全確保が大切です。そこで、腎センターでは、毎朝、安全確認を意識付けるため、独自の標語（腎センター

カルタ）をつくり、唱和を行っています。

め：目と手と声でチェックしよう
た：確かめ合う二人で除水計算事故防止

業務内容：血液透析（HD）・腹膜透析（CAPD）/吸着療法（アダカラム）
治療日：月・水・金曜日 午前・午後 火・木・土曜日 午前
器械台数：28台



腎・検診センター 田島健一

～お仕事紹介～ 生化学検査

今回は、生化学検査についてお話いたします。

皆様から採血された血液を遠心分離機にかけると、細胞成分と液体成分である血清に分かれます。この血清に含まれる成分を分析し、体の異常やその程度を調べる検査が生化学検査です。

生化学検査には、肝機能検査、腎機能検査、糖尿病検査などたくさんの種類がありますが、代表的な項目について説明いたします。

肝機能検査

肝臓が病気で障害をうけると細胞の内容物が血中に流れ出ます。また、肝臓が悪くなると、老廃物を無毒化する機能が弱くなって血中にたまっていきます。これらを測定することにより、肝臓の障害の有無やその程度を調べることができます。

代表的な項目

GOT、GPT、 γ -GTP、ビリルビン

糖尿病検査

生活習慣病のひとつである糖尿病は、病気が進行するまで自覚症状に乏しい病気です。糖尿病に関する検査には、次のものがあります。

代表的な項目

血糖、グリコヘモグロビン



腎機能検査

腎臓は血液をろ過する装置で、血液にたまった老廃物をこして尿にする臓器です。腎臓が悪くなると、たまった老廃物が血中に増加するため、これらを測定して腎機能の低下を知ることができます。

代表的な項目

尿素窒素、クレアチニン

高脂血症の検査

総コレステロールは動脈硬化の危険因子で、多すぎず少なすぎずが理想です。他にLDLコレステロール（悪玉）とHDLコレステロール（善玉）・中性脂肪などがあり、動脈硬化の指標となります。

※その他痛風などの検査があります

このように生化学検査は、病気の診断と治療、生活習慣病の早期発見などに役立ちます。生化学検査室では、分析装置の精度管理とメンテナンスを行ない、迅速・正確な検査に努めております。

中央検査科 中島雅子

看護部リスクマネジメント
委員会より今月の標語

確実にきちんと配ろう
内服薬



編集室より

今年の夏は、猛暑、落雷、台風と自然が猛威をふるいました。やっと過ごしやすい季節がやってきましたが、芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋・・・みなさんはどのような秋を過ごされていらっしゃるでしょうか？

A.A